

「地域キャリア教育支援協議会設置促進事業」実施報告書

| | |
|---|--|
| 1. 実施主体 | |
| 本事業を受託し、協議会の核となる自治体、もしくは経済団体等名 | 岩手県盛岡市 |
| 2. 現状及び課題 | |
| 地域内でのキャリア教育に関する現状 | <p>盛岡市教育委員会は、学校教育の目標を「子ども一人一人に、自立して社会で生きていくための基礎を育む」と定め、その達成に向けて、「確かな学力(知)」「豊かな心(徳)」「たくましい体(体)」をバランスよく育成する教育に取り組んでいる。</p> <p>これらの3つの力を引き出し、伸ばす「学ぶ意欲・目的」を中核に据え、自己の生き方を考える「先人教育」と「キャリア教育」を中心にして、子どもたちに夢や目標をもたせる取組を推進している。</p> <p>平成19年度に市内小中学校へのキャリア教育の支援体制を整えるための基盤づくりを目的とし、盛岡市キャリア教育推進協議会を設立すると共に、「盛岡市キャリア教育推進プラン」を作成し、プランに掲げた施策の実施及び評価を行ってきた。</p> <p>市内小中学校については、キャリア教育全体計画の作成・改善と教育課程への位置付けと工夫、職場体験等の体験活動の充実等、取組が進められている。</p> |
| 地域内でのキャリア教育に関する課題 | <p>1 キャリア教育についての研修機会が少なく、キャリア教育に関する学習活動を充実させるために、教員の指導力の向上に向けた取組を継続していく必要がある。</p> <p>2 職場体験の実施について、学校区内での活動が中心となることから、受入企業等の確保、各学校における各教科・領域等の指導における外部講師の活用など、実施に苦慮している学校が見られる。</p> <p>3 キャリア教育に関する保護者の理解が図られているとはいえない現状が見られる。</p> |
| 3. 委託内容に対する取組 | |
| (1) 学校におけるキャリア教育に対する支援を目的として、地域の関係者が参画する会議体の設置及び運営 | |
| 地域の推進体制（図などを用いて地域全体の体制が分かるように示すこと） | <p>盛岡市キャリア教育推進協議会</p> <p>【会長】 教育長</p> <p>【副会長】 教育部長 盛岡市中学校長 会代表</p> <p>【委員】 教育次長 盛岡商工会議所代表 ジョブカフェいわて代表 盛岡青年会議所代表 盛岡市建設業協同組合代表 盛岡工業クラブ代表 岩手中央農業協同組合代表 盛岡市社会福祉協議会代表 盛岡市小学校長会代表 盛岡市立高等学校長 盛岡市PTA連合会代表 盛岡市商工観光部長 盛岡市保健福祉部長 盛岡市教育研究会進路指導部長</p> <p>【事務局】</p> <p>盛岡ものづくり人材育成会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛岡市 ・岩手大学 ・盛岡地域職業訓練センター ・盛岡地域地場産業振興センター ・子ども科学館 ・盛岡市商工会議所 ・盛岡工業クラブ ・盛岡市教育委員会事務局 <p>岩手県教育委員会 盛岡教育事務所</p> <p>北上川流域ものづくりネットワーク</p> <p>連携 協議会活動へのアドバイス 活動支援</p> <p>連携 情報交換 活動支援 ・協議会 ・各小中学校</p> |

| | 団体名 | 役割 | |
|--------|---|---|--|
| 協議会の構成 | 盛岡市教育委員会 | 会長 教育長 副会長 教育部長 委員 教育次長 事務局 学校教育課 | |
| | 盛岡市小学校長会 代表 | 委員(教育機関) | |
| | 盛岡市中学校長会 代表 | 委員(教育機関) | |
| | 盛岡市立高等学校 校長 | 委員(教育機関) | |
| | 盛岡市教育研究会進路指導部 | 委員(教育機関) | |
| | 盛岡市PTA連合会 | 委員(保護者) | |
| | 盛岡市商工会議所 | 委員(産業界) | |
| | ジョブカフェいわて | 委員(産業界) | |
| | 盛岡市青年会議所 | 委員(産業界) | |
| | 盛岡市建設業協同組合 | 委員(産業界) | |
| | 盛岡工業クラブ | 委員(産業界) | |
| | 岩手中央農業協同組合 | 委員(産業界) | |
| | 盛岡市社会福祉協議会代表 | 委員(地方自治体) | |
| | 盛岡市商工観光部 | 委員(地方自治体) | |
| | 盛岡市保健福祉部 | 委員(地方自治体) | |
| | | <p>【事業】盛岡市キャリア教育推進協議会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。</p> <p>(1)キャリア教育推進に関すること (2)キャリア教育推進のために必要な支援体制の整備に関すること</p> <p>【委員】協議会の委員は、次の各号のうちから会長が委嘱する。</p> <p>(1) 盛岡市教育委員会事務局の職員 (2) 盛岡市小(中)学校校長会が推薦する者 (3) 小(中)学校教育研究会進路指導部会が推薦する者 (4) 盛岡市立高等学校長 (5) 前4号に掲げる者のほか、会長が必要と認めた者</p> <p>【役員】</p> <p>1 協議会に、次の役員を置く。</p> <p>(1) 会長 1名 (2) 副会長 2名</p> <p>2 会長は、教育長をもって充てる。</p> <p>3 副会長は、委員のうちから会長が委嘱する。</p> <p>【役員の職務】</p> <p>1 会長は、委員を代表し、会務を総理する。</p> <p>2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはこれを代行する。</p> <p>【事務局】</p> <p>1 協議会の事務を処理するため、盛岡市教育委員会事務局学校教育課に事務局を置く。</p> <p>2 事務局の組織および運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。</p> | |
| | 目標 | 関係機関が連携し、学校、企業、保護者、行政等の共通理解と協力の下で、小・中・高の発達段階に応じたキャリア教育の推進を図る。 | |
| 方針 | <p>1 キャリア教育を推進する教員の資質・能力の向上</p> <p>2 企業等の協力を促す環境整備</p> <p>3 学校、産業界、関係行政機関等の連携強化及び基盤整備</p> <p>4 キャリア教育に対する社会全体の理解の促進</p> | | |

| | |
|--|--|
| <p>事業の自立的かつ発展的な運営体制</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・年2回キャリア教育推進協議会を実施し、PDCAサイクルで学校におけるキャリア教育に対する支援を継続できるようにするとともに、学校と地域社会、企業等との調整が図られるようにする。 ・職場体験の受入及び外部講師(キャリアアドバイザー)の学校への派遣等、無償での実施を基本として協力を依頼し、リストの整備を進めることで、学校が活用しやすい体制を整えていく。 ・今回の事業で作成したリスト等を刊行物及びCD-Rとしてまとめ、各学校に配布することで、継続して使用できるようにする。 |
| <p>(2)学校の教育活動に対して行われる、社会人講師の派遣や企業等が作成する一定の教育コンテンツの提供などによる支援の促進</p> | |
| <p>①支援を提案する支援提供者を開拓すること</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育推進協議会を構成する産業界・地方自治体等の関係機関より情報収集を行い、社会人講師など外部講師を各小中学校で活用できるよう盛岡市キャリアアドバイザーリストの作成・整備を行う。 ・リストについては、受入可能時期や人数、体験可能な業務等、学校が必要とする情報について詳細に提供できるよう努めていく。 | |
| <p>②支援に関する提案を学校に提示すること。</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「盛岡市キャリア教育推進プラン」をもとに、リーフレットを作成し、キャリア教育推進の重点及び具体施策、キャリア教育で目指す子どもの姿、評価指標について各学校に周知する。 ・各小中学校で外部講師を活用するための「盛岡市キャリアアドバイザーリスト」と併せて、リストの活用に向けたフローチャートを各学校に提示し、各教科・領域・行事等で活用が図られるようにする。 | |
| <p>③個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)。</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・各学校のニーズやキャリアアドバイザーの活用状況や要望等について把握するために、各小中学校にアンケートを実施し、調査結果を産業界、関係行政機関等にも還元していく。 ・「キャリアアドバイザーリスト」と併せて、リスト相談にかかわる連絡先(市教委キャリア教育担当指導主事及び協議会関係団体担当者)を示し、学校と事業所等のマッチングが円滑に進むことができるよう努める。 | |
| <p>(3)学校の教育活動として校外で実施される職場見学、職場体験活動及びインターンシップ等に対する支援の促進</p> | |
| <p>①インターンシップ等の実施場所として児童生徒の受入れを提案する支援提供者を開拓すること。</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・既存の「職場体験受入リスト」をもとに、キャリア教育推進協議会を構成する産業界・地方自治体等の関係機関より情報収集を行い、「盛岡市職場体験活動受入リスト」の作成・整備を行う。 | |
| <p>②インターンシップ等に関する支援提供者の提案を学校に提示すること。</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「職場体験活動受入リスト」と併せて、効果的な活用に向けたフローチャートを各学校に提示し、リストを活用して各学校における職場体験活動の充実が図られるようにする。 ・「職場体験活動受入リスト」と併せて、リスト相談に関わる連絡先(市教委キャリア教育担当指導主事及び協議会関係団体担当者)を示し、学校と事業者のマッチングが円滑に進むことができるよう努める。 | |
| <p>③個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)。</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・各学校のニーズや職場体験受入リストの活用状況や要望等について把握するために、各小中学校にアンケートを実施し、調査結果を産業界、関係行政機関等にも還元していく。 | |
| <p>(4)その他の取組</p> | |
| <p>(1)教員の資質能力の向上に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の現状について認識を深め、キャリア教育の必要性や方向性をとらえることができるよう、教員を対象とした公開講座を開催する。 ・小・中・高等学校各1校にキャリア教育の実践研究を委託して実施するとともに、教育研究所研究発表大会及び研究紀要の配布を通して全小中学校・市立高校に紹介する。特に、小中学校9年間の系統を踏まえた計画作成及び授業実践を実施することに留意したい。 <p>(2)キャリア教育に対する社会全体の理解の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者等の理解の促進を図るために、保護者向けリーフレット及び啓発ポスターを作成し、全小中学校保護者に配布する。 ・市民を対象とした講演会を実施し、キャリア教育に関する理解の促進を図る。 <p>(3)復興教育と関連を図ったキャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿岸被災地でのボランティア活動や職場見学などの体験活動や、被災地域での児童生徒との交流など、キャリア教育との関連を図った学習活動を希望する小中学校に対して、児童生徒の移動に係る経費を支援する。 | |

4. 実施内容

| 実施時期 | 実施内容 | | | |
|------|--|--|---|---|
| | 推進協議会 | 教員の資質向上 | 社会全体の理解促進 | 復興教育の関連 |
| 4月 | | ○キャリア教育研究推進校決定 (中野小学校・河南中学校) | ○H27年度版保護者向けリーフレット・啓発ポスターの配布 (対象:小5, 中2) | ○支援校の決定・事業計画の作成 |
| 5月 | ○第1回盛岡市キャリア教育推進協議会(今年度の重点及び具体施策の検討等) | ○研究校研究及び実践 ・全体計画見直し ・小中9年間の系統性を踏まえた年間指導計画の作成(中野小学校・河南中学校で検討) | | |
| 6月 | ○「盛岡市キャリア教育推進プラン」配布 | | | ○キャリア体験活動の実施 ・職場見学 ・体験活動 ・被災地姉妹校との交流 |
| 7月 | ○推進協議会各委員を通じて「職場体験受入・キャリアアドバイザーリスト」への登録の呼びかけ | ○キャリア教育公開講座の開催 (対象:小中学校教員) | | |
| 8月 | | ○研究校授業実践 ・各教科及び各領域におけるキャリア教育の授業実践 | | |
| 9月 | ○キャリア教育実施状況アンケートの実施と集約 (対象:小中学校) | | | |
| 10月 | | | | |
| 11月 | | ○研究紀要の作成 | | ○キャリア体験活動のまとめ(実施報告書作成) |
| 12月 | ○改定版「職場体験受入・キャリアアドバイザーリスト」登録の再募集 | | ○盛岡市「広報もりおか」にてキャリア教育の推進の周知と啓発 (配布部数:14万2,590部) | |
| 1月 | | ○盛岡市研究所研究発表大会 (1)教員及び保護者等を対象とした講演会 (2)キャリア教育委託研究実践発表及び協議 (中野小学校・河南中学校の実践発表) | | |
| | ○第2回キャリア教育推進協議会(今年度の反省及び次年度の取組について) | ○研究紀要配布 | ○新成人を対象としたキャリア教育アンケートの実施 | |
| 2月 | ○改定版「職場体験受入・キャリアアドバイザーリスト」の作成・整備 | ○キャリア教育先進研究視察(国政協議会) | ○改定版保護者向けリーフレットの作成 ○啓発ポスターの作成 | |

5. 協議会の成果と課題

◆盛岡市キャリア教育推進協議会第1回協議会で策定された、5つの推進方策に基づく成果と課題

- 1 小・中・高等学校段階における組織的、系統的なキャリア教育の推進
- 2 教員の資質・能力の向上
- 3 企業等の協力を促す環境整備
- 4 学校、産業界、関係行政機関等の連携及び基盤整備
- 5 キャリア教育に対する社会全体の理解の促進

【推進方策1・2について】

(1) キャリア教育の研究推進による小中9年間を見通した計画の整備

盛岡市立中野小学校と盛岡市立河南中学校の2校に委嘱し、9年間を貫いて育てたい姿を見据えた計画を整備し、実践研究を推進していただいた。1月の教育研究所発表会において発表するとともに、研究紀要を市内全小・中学校へ配布し紹介した。(参加者評価3.77/4段階)

○研究委託した2校がこれまで取り組んできた「小中連携教育」で明らかになった児童生徒の課題を起点としたため、付けたい力が明確であり、系統的に9年間を見通した組織的・横断的な計画を提案することができた。

▲キャリア教育の中核である「体験活動」の充実のため、地域や関係機関、企業等との連携をさらに深めていく必要がある。

(2) 先人教育・復興教育との関連

復興教育との関連として、従来の「心のかけはし事業(被災地小中学校との交流事業)」にキャリア教育の視点を加え、復興にかけける思いや岩手の未来を創る決意等の交流、沿岸被災地の地場産業の復興の様子を学習するプログラムを実施した。また、先人教育との関連として、体験活動の事前もしくは事後において、盛岡の先人の「夢」や「志」を先輩社会人の仕事に対する思いと重ねる学習を実施した(委託研究における実践)。

○「心のかけはし事業」に関わらず、復興教育とキャリア教育との関連をもたせた指導計画の整備の可能性と必要性の理解が進んできている。

▲先人教育で育む「夢と誇りと志」をもつ力は、自立のための具体的な能力として「人生設計力」に位置づけられるものと捉えられるため、小学校より中学校で強化される能力である。先人教育の中学校でのさらなる充実が課題である。

【推進方策3について】

(1) 職場体験受入リストの精査(キャリアアドバイザーリストとして再整備)

「職場体験リスト」の様式をキャリアアドバイザーとしての対応の可否も併せて明記できるように改め、盛岡工業クラブ、盛岡商工会議所、盛岡青年会議所のご協力をいただきながら、リストの再整備を進めている。

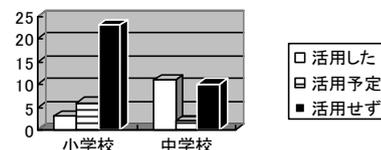
○キャリア教育推進協議会の委員の方々のお力添えで、市内の様々な職種の事業所から登録の申込が現在も届いている。

▲事業所数を増やし、来年度初めに配布する。

(旧リストは180事業所)

▲データが古い等の理由で、今年度は活用を見送った学校が多かった。来年度は随時新しい情報を提供したい。

〔学校数〕



【推進方策4について】

(1) 諸調査・アンケート結果の情報提供

「平成26年度盛岡市小中学生職場体験・職場見学受入先事業所アンケート」の結果を、教育研究所研究発表大会キャリア教育分科会で、受入事業所の声に解説を加えながら周知した。

○受入事業所アンケートは、中には学校の対応についての否定的な意見もあるが、「社会全体で子どもを育てる観点で協力したい」といったキャリア教育そのものに対する肯定的な意見をお伝えすることができ、「連携」に対する学校側の捉え方の変化につながるものと思われる。

▲学校の捉えている「キャリア教育実施上の課題点」から、学校の取組に差があり、計画立案や体験学習実施への支援が必要であることが明らかとなった。

【推進方策5について】

(1) 保護者向けの広報活動の充実

・一学期に、小学校4年生及び、中学校1年生を対象に「保護者向けリーフレット」を配布し、その活用状況についてアンケート調査を行った。

・講師としてつなぎ温泉四季亭専務取締役の林 晶子氏を迎え「キャリア教育講演会」を実施した。

○「保護者向けリーフレット」は、活用の手だてを示した「効果的なリーフレットの活用について」を参考にして、児童生徒への配布で終わらずに、保護者への効果的なアプローチを工夫している学校が見られた。(学年・学級懇談会で話題にしながら配布し、自立のチェックを一緒に行った、など)

○「キャリア教育講演会」は、講師の「夢を語れない若者(子ども)が増えている」という言葉や、紹介された「身につけるべき社会性を育てられずに社会に出る子どもたち」の例に、自立の具体的な姿に気づかされながら、参加者が親として我が身を振り返る機会となった。(参加者450名 評価3.77/4段階)

▲「キャリア教育」という言葉を多く目にいただき、少しでも理解・協力につなげるため、「保護者向けリーフレット」を配布する学年のみならず全校で活用できるよう、ポスターについてもさらに周知し、保護者と地域の理解を促進していく必要がある。改訂版リーフレットは、小・中全校配布としたい。

※計画段階で示していた検証方法等を踏まえ、客観的・具体的に記載すること。※成果を踏まえた今後の課題についてもあわせて記載すること。